

平成25年度第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成25年度第1回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成25年7月1日（月）午後2時30分～4時00分
3. 開催場所 木更津市役所 6階委員会室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名
成田篤彦委員、島立理子委員、梶山林継委員、金子馨委員、川戸貴史委員、
實形裕介委員、三浦茂一委員、石井良幸委員、小河原茂之委員
教育委員会事務局7名
初谷教育長、能城教育部長、本多教育部次長、高橋文化課長、小高副主幹、
中能副主幹、寺原事務員
5. 議題及び公開又は非公開の別
委員長、副委員長の選出について（公開）
議題1 市史編集事業の経過（公開）
議題2 『図説木更津のあゆみ』の評価（公開）
議題3 今後の市史編集事業に係る協議事項（公開）
その他（公開）
（非公開の理由）

6. 傍聴人 なし。

事務局（高橋文化課長）

それでは、第1回木更津市史編集委員会を開会いたします。

本日の市史編集委員会は、池田委員から都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告します。

会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、成立しております。

また、会議は公開で行いますのでご了承下さい。

なお、本日が初顔合わせでございますので、ここで委員の皆様へ、名簿順に自己紹介をお願いいたします。3枚目の名簿順によりまして、成田委員よりお願い致します。

成田委員 専門分野は動物生態学です。南房総の動物全般をやっております。『図説木更津のあゆみ』の編集事業では、動物関係をやっています。

島立委員 千葉県立中央博物館に勤務しております。君津地方では、10年位前から房総の山のフィールドミュージアムでお世話になっております。

専門は民俗で、民俗調査をやっています。木更津市では5・6年前に中島区の梵天立て（国記録選択無形民俗文化財）の撮影でお世話になっております。

梶山委員 専門は考古学で、大学は3・4年前に定年になって、今、國學院大學名誉教授になっていますが、大学へは月1・2回行く程度です。神道学は家の関係でやむを得ずやっていて、近世神道の一部をやっています。

金子委員 昨年まで、木更津市の文化財保護審議会会長、木更津市史編集委員会委員を担当しました。木更津市内小学校の副教材の『わたしたちの木更津』の監修を手掛けておりましたが、また今回も『わたしたちの木更津』改訂版の監修に携わっております。

郷土史と言いましても、千葉県に関係のある人について伝記を執筆しております。

川戸委員 千葉経済大学に勤務しております。専門は日本中世史の戦国期から織豊期にかけての経済史を専門にしています。近年は中世資料の編さんが進んでおり、今回の市史編集事業によって新しい歴史像が導き出せればと思っております。

實形委員 千葉県文書館に勤務しております。市内金田地区はめまぐるしく町が変わっていますので、地元の調査を早くしなければとひしひしと感じています。専門は近世の漁業史で、他に旗本与力同心支配、村落史全般、地方文書の研究をしています。

三浦委員 『図説木更津のあゆみ』編集では近現代を担当しておりました。

最近が高柳の至徳堂という私塾ですが、何人かで共同研究をやっています。幕末維新时期も専門にしようと考えています。

石井委員 国の重要文化財に指定されている金鈴塚古墳の資料を展示している郷土博物館金のすずの館長をおおせつかっております。

小河原委員 市の職員として入ることに恐縮しております。木更津市史編集委員会委員として専門的な立場として臆していますが、企画課長として市役所全般を所管しているので、色々な情報や資料を教育委員会に提供したいと思っております。

事務局（高橋文化課長）

ありがとうございました。続きまして、初谷教育長をご紹介させていただきます。

初谷教育長 教育長の初谷でございます。歴史を編む、編さんするというのは為政者にとって一大事業であります。木更津市にとっては、『木更津市史』を作るというのは、継続した事業として、歴史を編むということは大変重要な事業になるわけであります。

事務局を預かる教育委員会として、皆様のような立派な方々に委員をお引き受けいただいたことに対しまして、感謝しておりますし、また大変心強く感じております。

事務局（高橋文化課長）

次に事務局職員の自己紹介をさせていただきます。

事務局職員 自己紹介

事務局（高橋文化課長）

最初に、資料の確認をお願いします。

資料確認する

事務局（高橋文化課長）

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますが、これまでの市史編集委員会は、平成25年3月31日をもって任期が終了しております。

従いまして、委員長、副委員長を改めてご選出していただく必要がございます。

委員長、副委員長が選出されるまでの間、議事の進行を教育部長が務めさせていただきますことといたしたいのですが、よろしいでしょうか。

各委員 結構です。

事務局（高橋文化課長）

ご了承いただきましたので、教育部長に議事の進行をお願いいたします。

議長（能城部長） それでは、委員長、副委員長の決まるまでの間、暫定議長を務めさせていただきます。

委員長ならびに副委員長の選出について、改めて事務局より説明願います。

事務局（高橋文化課長）

附属機関設置条例第4条の規定により、委員長及び副委員長の選出は、委員の互選とされております。

そこで、委員長1名、副委員長2名の選出をお願いするものでございます。

議長（能城部長） 事務局より、委員長1名、副委員長2名を選出願いたいとのことでございます。選出について、いかがとりはからいましょうか。

石井委員 事務局のほうで案がございましたらご提示ください。

議長（能城部長） 石井委員からご意見がありましたが、事務局として提案はありますか。

事務局（高橋文化課長）

事務局といたしましては、これまでの木更津市史編集事業にご尽力いただ

きました方々にご就任いただければと考えます。

委員長は、金子馨委員、副委員長は三浦茂一委員、成田篤彦委員。以上、3名の方を提案させていただきます。

議長（能城部長） 事務局より、提案がございましたが、いかがですか。

各委員 結構です。

議長（能城部長） 全員賛成ですので、委員長は金子馨委員、副委員長は三浦茂一委員、同じく、成田篤彦委員をお願いいたしたいと存じます。

委員の皆様には、ご承認の拍手をお願いいたします。

委員長、副委員長選出の案件につきましては、決定いたしましたので、暫定議長の職を解かせていただきます。ありがとうございました。

事務局（高橋文化課長）

それでは、委員長、副委員長が決定いたしましたので、金子委員長よりご挨拶を賜りたいと存じます。

金子委員長 大変な公務をいただいて、寿命が縮むような感じがしますが、皆様のご協力をお願いします。

日記を書いてチェックしていますが、2・3年は心身の健康に気をつけて過ごしたいと思っています。

よろしくをお願いします。

事務局（高橋文化課長）

ありがとうございました。それではこれからの議事進行は、金子委員長にお願いいたします。

金子議長 それでは、これから議長を務めさせていただきます。協議事項といたしまして、事務局から3つの議題が提出されております。

はじめに、第1号について事務局より説明願います。議題説明をお願いします。

事務局（小高副主幹）

議題1 市史編集事業の経過といたしまして、これまで木更津市で実施しました市史編集事業について説明します。

昨年度の第3回木更津市史編集委員会において、實形委員よりご提出いただいた資料の一部をご用意しました。

資料のとおり、本市におきましては市制施行の周年事業として刊行しております。

他の自治体での編集事業を調査したところ、周年事業を契機として実施し

ているところが多くなっております。また、他の自治体では、資料編・通史編を刊行しておりますが、本市で、これまで刊行したものは、通史編と昨年度刊行した『図説木更津のあゆみ』です。

『図説木更津のあゆみ』は、新しい『木更津市史』として資料編、通史編を編集することに先立ち、序章的な位置づけのもと市制施行70周年を記念して刊行しました。

今後は、この『図説木更津のあゆみ』を踏まえて、新しい『木更津市史』の資料編と通史編を編集するため、事業をすすめることとなります。

金子議長 ありがとうございます。議題1ですね。事務局より説明がありましたが、質問ご意見あったらお願いします。

梶山委員 『図説木更津のあゆみ』の時も係りましたが、今までの市史編集関係の資料はまとめて保管されていますか。

事務局（小高副主幹）

『図説木更津のあゆみ』に関する資料は、写真と資料をデジタル化して管理しております。現物としては、木更津市立木更津第一小学校の資料を一部借りて、台帳作成を継続して実施しております。昭和44年度に刊行した『木更津市史』関係の書類は木更津図書館で保管しておりますが、『図説木更津のあゆみ』の編集事業において、保管状況は確認しておりません。

梶山委員 わかりました。

金子議長 その他に、これまでの編集事業でお気づきの点がありましたら後でお願いします。

つづいて議題2号について説明ください。

事務局（小高副主幹）

議題2『図説木更津のあゆみ』の評価については、資料2～5頁にあります。議題3の参考資料として添付してあります『『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針について』『4. 市史の内容、構成について』の中で、「新修『木更津市史』刊行に向けての序章的な位置づけとし、このことを通じて、新たな『木更津市史』刊行の気運を高めていく」とありましたことから、『図説 木更津のあゆみ』刊行後の反響について、議題2の資料のとおり、5項目について調べました。

1の項目では、市内小学校の副教材として発行しております『わたしたちの木更津』の編集に携わった金子委員長から、学校の副教材にふさわしいというご意見をいただいております。

『図説 木更津のあゆみ』は中学生が理解できるよう編集していたので、市内中学校13校の理科と社会科教師を対象としてアンケートを実施しました。

アンケート結果は、資料4・5頁のとおりで、副教材としてふさわしいという回答が多数を占めました。また、校内図書室に貸出用図書の配置も希望されており、評価は高いと言えます。

2の項目では、有償頒布用として1,000冊発行しており、6月24日段階で、823冊、ご購入いただいております。

また市内の図書館に貸出用として配本しており、発行から7ヶ月間での累計は、同じ頃配本された同じ分野の本と比較して5～9倍の貸出率となっております。

3の項目では、市内の公民館等で実施されている講座の講師として、昨年度と今年度に市史編集に携わった方に対して派遣依頼があり、それぞれ対応していただいております。

また、『図説 木更津のあゆみ』に掲載した写真の提供依頼もあり、徐々にではありますが、冊子が活用されているといえます。

4の項目では、『図説 木更津のあゆみ』の販売を文化課と郷土博物館金のすずで行っておりますが、電話で購入問い合わせの際、博物館で販売していることを伝えると、博物館を観覧して本を購入されるケースがあり、相乗効果はあるものと思われまます。

今後は、新しい『木更津市史』を編集するうえで、市民に対する周知活動について検討していただくときの判断材料のひとつとしていただければと考えます。

5の項目は、昨年度の編集委員会であげられた要望を大まかにまとめたものですので、この点についても今後の参考としていただければと考えます。

金子議長

議題2の『図説木更津のあゆみ』の評価についてですが、『図説木更津のあゆみ』の活用状況について事務局が把握した内容について説明がありましたが、委員の皆様にも何か感想含めて意見をお願いします。

各委員の個人的な付き合いや仲間、近所の人でうわさになったことでもあればお願いします。実方委員どうですか。

実方委員

『図説木更津のあゆみ』の献本は、県外ではどこに献本していますか。

事務局（小高副主幹）

『図説木更津のあゆみ』刊行後、市内の公立・私立学校、公民館、図書館、

県内公立図書館の他、県外では資料提供先に献本しました。

それ以外については発行部数が3000部で、昨年度は市制施行70周年記念式典で関係者にお配りしたため、全国津々浦々に献本していません。一部の図書館、大学に献本し、他に先方から希望があったところに献本しております。

金子議長 よろしいでしょうか。他にありますか。

梶山委員 今回の関係で、長崎には送っているだろうが、近県ではどうですか。県立図書館や東京都立図書館はどうですか。

事務局（小高副主幹）

東京都立図書館から希望があったので献本しております。

梶山委員 基本的に木更津は、東京というか江戸というか、神奈川とは、これからも関係が出てくると思うので、中央図書館で良いから送ってはどうか。

事務局（小高副主幹）

神奈川県立図書館には献本しておりますので、それ以外は在庫の状況を確認しながら献本先を検討します。

梶山委員 林家の関係で、今後は資料を提供してもらい可能性があるのですが、長野県の中央図書館に献本してはどうか。

事務局（小高副主幹）

梶山委員のご意見は、請西藩の林家に関する資料のことだと思いましたが、昨年、長野県松本市で林家を研究している団体から連絡があり、真武根陣屋など請西藩林家に関連するものを見学したいとおっしゃっておりましたので、林家に係る所への献本も検討します。

金子議長 これから市史編集を進めるにあたり、関係しそうなところとは仲良くしていけば良いと思います。他にありますか。

私的に木更津市内の中学校に勤務していたので、同窓会などで紹介しておりますが、『図説木更津のあゆみ』の内容は読みやすいと評価をいただいています。また、漢字が読めなくなっているので、ルビをたくさん使っているのは良かったと思います。

2号議題についてはこれでよろしいでしょうか。それでは、議題第3号について事務局から説明ください。

事務局（小高副主幹）

議題3新しい木更津市史に係る編集事業の協議事項についてですが、これまでの成果としては、昨年度の市制施行70周年を記念して、新しい『木更

津市史』に先立ち、序章的な位置づけとして『図説 木更津のあゆみ』を刊行しております。資料の7頁に参考として図説の基本構想を提示しておりますが、今後は、新しい『木更津市史』に係る編集基本構想及び基本方針を策定する必要があります。その際は、添付しております『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針についてを検証して策定していただければと考えております。

また事業期間ですが、現在の木更津市史編集事業は、平成21年4月から開始し、同年7月に木更津市史編集委員会を開催しております。

新しい『木更津市史』の基本構想を策定していただく際に、今後の期間についてもご検討いただければと考えております。

また別資料として木更津市史編集委員会日程という資料がありますが、委嘱期間2年間の間で委員会の予定について記載しております。年4回、委員会を開催を考えているので、委員長と相談しながら開催を考えます。

資料6の3は、『図説 木更津のあゆみ』を発行するにあたり木更津市史編集委員会で検討した内容や、これから検討していただくことになるだろうものを記載しました。他にあればご意見をお願いします。

金子議長 資料が多いので少し時間をとって見ていただいて質問・意見の時間をとりたいので、皆さん資料に目を通してください。

事務局（小高副主幹）

先ほど言い忘れましたが、長崎市で新しい市史を編集しており、事務局と連絡をとっていますが、長崎市からは『図説 木更津のあゆみ』について構成内容はわかりやすく、見やすいと好評価を得ています。

また、出版社から市民の立場からすれば、ダイジェスト版のほうが興味を抱くので、それから資料編、通史編を作るという木更津市の市史編集方針のほうが良いだろうという意見がありました。

梶山委員 委員として任期中の2年間で、大きなものとして新しい『木更津市史』の基本構想基本方針の策定を確実にするのは結構です。ただ、せっかく委員が決まりましたので、他に何が出来るのか、無駄にならないためには新しい『木更津市史』の基本構想基本方針の策定だけではもったいない。新しい『木更津市史』を編集するにあたり、市としての方針はある程度あったほうが良いと思いますので意見をお聞かせいただけないか。10年でも20年でもやっていいんだよというのか、途中で資料集などを出すのが良いのか、それともそれをやらないで最後に出すのか。木更津市としての方針を教えてください。

い。

事務局（小高副主幹）

『図説 木更津のあゆみ』を刊行するにあたり、執筆員、調査員の方々に資料調査、原稿執筆を依頼しておりましたが、これまでの木更津市史編集委員会委員の任期は平成25年3月31日まででしたので、資料調査は中断しています。今後は新しい『木更津市史』の基本構想基本方針の策定だけでなく、どういった組織で新しい『木更津市史』を編集すればよいか、決めていただければと思います。

他の自治体では部会を設け、部会の中で資料調査、研究等を実施しているところが多くなっております。委員の方々には、新しい『木更津市史』の基本構想基本方針の策定と同時に調査を同時にすべきという話があれば今後協議していただく必要があると思います。またどういったところから調査すればよいか。調査員等、部会の構成についてご推薦というか、こういう人がいるとか、こういう所があるとかご協議していただければと思います。

金子議長

色々な予想されることについて出させていただいて、これからの取り組みについてどんなことを考えて、配慮していただき、お気づきの点があれば出していただきたい。

新しく委員になられた方ご意見はありますか。三浦委員どうですか。

三浦委員

大方針がということですが、具体的にはそれをどういうふう位置づけてもらえるか。『図説 木更津のあゆみ』を編集する際に、木更津市史編集委員会委員になってから、『図説 木更津のあゆみ』の原稿執筆もあり、木更津市立図書館にある古文書と旧『木更津市史』の資料を調べましたが、図書館司書はすぐに対応していただけなかった。こういったものがあるが捜して欲しいといってもすぐに出てこない。図書館司書は、やはり市民サービスが第一義務ですから、古文書について分担して誰かがやっているわけではありませんからすぐに出ないのは無理ないと思いました。ただ、原稿執筆期限もあるので、資料をすぐに提供できる体制になっていないことについてジレンマを感じました。

そして、原稿を執筆するには資料を見なければならぬので、図書館に保管されている資料を調べ、この資料を用いて旧『木更津市史』は書かれてあったことがわかりました。

旧『木更津市史』に書いてあったことは確かだと確認するには、根拠となるものを見なければならぬ。しかし、何がどこにあるのかははっきりしない

ということを痛感しました。

校正の段階で、少なくとも図書館にある古文書、旧『木更津市史』編集資料は何があるのか目録作成をしようと考え、図書館にお願いして月1回、目録作成の作業をしております。

途中、有志が参加し、最初に終わったのは『重城保日記』で、10巻というりっぱなものを重城良三氏と菱田忠義氏の成果であります。活字化されたものですから、人が作っているものだから間違いもある。市史を編集するには原資料に当る必要があるというのが自分の考えで、捜してみると日記の原本は図書館にはなく、子孫のお宅に残っているのが分かり、資料調査協力員と一緒にうかがって撮影したり目録を作成しました。おかげで、明治天皇が崩御した年の明治45年の日記を『図説 木更津のあゆみ』に掲載することができました。

こういうことを今から10年先20年先にむけて、個人でもやろうと考えておりますが、こうした作業をせっきく木更津市史編集委員会が発足したのなら何らかの形で委員会の中に位置づけて、広い意味での事業の一環として基礎作業として整理作業を位置づけてもらおうと良い。

旧『木更津市史』や『木更津郷土誌』を編集された先生方は亡くなられておりますが、当時、収集された資料は自宅に残っているはず。それを古文書として、資料として調査して目録化しないと紛失する恐れがある。

宮本栄一郎氏の『上総義軍』とか立派な本は、手で書いた非常に有用な資料を盛り込んだ歴史書で、当時も、既に無くなっている、変貌しているものについて、聞き取り調査をしているので、そのときの聞き取りしたものがあるはず。

そういったものの調査を市史編集委員会としてお願いできないかと 思います。

市史編集という大きな目的のため2年間で構想を作るとかではなく、期限なしにやるべきものはやるようにするというをさせていただければといった感想を持っております。

梶山委員

10年、20年かけて実施する仕事は、必ず途中で中だるみします。事務局的な委員会を作っているのはかまわないが、市史編集委員会でそれ程時間をかけられません。

三浦委員の指摘するように、資料の所在調査もしていないので、どこに資料があるかをまずやらなければならない。

重城さん、宮本さんとかの調査もやらなければならないが、およそどこにどれだけあるかを先にすべきであろう。そうすれば方針も立ちますから、一番あるとすれば図書館でしょうから、図書館を含めて所在調査を2年間で、およそ出来る範囲だけでもチェックする必要がある気がします。

一方で、新しい『木更津市史』の基本構想基本方針を決め、一方で、5年、10年で何が出来るかを決めて行かないと、余り正確なもの、しっかりしたものを作ろうとすると間延びしてしまう。

金子議長

2人から大変貴重なお話、とくに三浦委員から図書館の活用から発展して苦労されたお話、課題指摘がありました。基礎的な調査は不十分であるという意見がありましたが、今日はこんなことを考えて行きたい、なるべく良い方向に進めたいので皆さんから感想などもお聞かせください。

成田委員

出来るだけ早く自然分野だけでも組織を作りデータを採りたい。現在のデータも採るし、文献調査も進める。調査員を早い時期に推薦して組織を作って、早ければ秋にもやりたい。

金子議長

他にありますか。

實形委員

今残っている資料がなくならないようにしないと、『図説 木更津のあゆみ』より良いものはできない。個人宅に資料が残っているものは捨てないでもらう。

悉皆調査をして、所在がわかったら、そのまま残してもらうようしてもらう。一番多いのは、世代の代替わりする時に捨てられる場合です。ここ1・2年でやらないと市域はめまぐるしく変わっているので資料を残してもらうため、『図説 木更津のあゆみ』を利用した宣伝活動を行い、資料を残してもらうようにする。今後、皆さんが保管している資料が新しい『木更津市史』になると言えば、絶対に提供してくれるはず。市史編集事業というのが、資料を残してもらうための一番いいきっかけになるのでその段取りをたてていただく必要があります。

近世では『図説 木更津のあゆみ』の執筆者達に協力を求めながら地元の古文書を読める人に協力してもらえば出来ると思います。このための道筋を早く始めるべきではないか。

金子議長

資料の保存、確保が緊急課題、急速に資料がなくなっていくという心配意見が出ました。他にありますか。

島立委員

資料6頁に市史編さん室の設置運営とあるが、来年度以降編さん室が必要ということ委員会を答申するという事ですか。

事務局（小高副主幹）

他の自治体でどのように編集を実施しているか、こういうことが考えられるのではないかとということで列記したもので、必ず編さん室を設けなければならぬということではありません。附属機関設置条例に記載されているとおり、木更津市史編集委員会は市史編集計画の審議と調査を行い、事業遂行に必要な事項を市長に答申又は建議することで位置づけされているので、編集するに当り編集室が必要かどうかも検討していただくということです。

島立委員　　まだ検討段階。決まっていないということで、それも今後検討するという
ことよろしいですか。

事務局（小高副主幹）

島立委員の話のとおり決まっておられません。

島立委員　　どこの市町村でも大きな編さん室を作っていますが、それなりの予算措置が必要でしょう。来年度以降どうなのか、できればあったほうがいいと思いますが木更津市として検討していただきたい。資料を集めていくには組織が必要です。

『図説 木更津のあゆみ』の編集基本構想及び編集方針の中に『木更津市史』本編は4巻とありますが、これは市としての方針ですか。

事務局（小高副主幹）

『図説 木更津のあゆみ』を編集する際、市史編集委員会委員がまとめたもので、再度ご検討いただきたい。

島立委員　　10年かけて市史編集を実施するとなると、途中で何かやらないと中だるみします。最後に1冊出すというのは厳しい。民俗では、袖ヶ浦市は地区ごとに民俗編をだしています。野田市も同じです。

個人的な意見として、大きなものを書くための小さなステップを踏んでいくというのが良いのではないのでしょうか。そのためには予算も含めて組んでいただくようにしてほしいと思います。

金子議長　　よろしいでしょうか。

事務局（小高副主幹）

先ほどの図書館資料ですが、図書館に所蔵されている冊子化されている木更津関連資料は3500冊以上あります。冊子化するときどういったものを調査しているかを調べることも必要であり、図書館所蔵資料を見直すということは重要であり、時間もかかるだろうと事務局で見込んでいます。

金子議長 大変活発に、意見を出していただきました。他にいかがでしょうか。

川戸委員 基本方針は皆さんと同感ですが、中世史の特殊事情にからめて話すと、新しい資料の発見はないでしょう。活字化している資料が中心で、木更津市に係る新しい資料が発見されるとすれば県外でしょう。

調査方針は今後の課題として、調査員を決めて活動するとなると東京や、横浜と関係が深いのですが、京都とかの遠方調査もありえるだろうが、現段階では構想はあるのですか。

梶山委員 基本的に市域外資料の方針は分野ごとでそれなりに特殊性がある。自然、民俗は早く調査したいということもあるので、歴史部門とは違うので、それぞれの部門ごとに事務局で按分を作り、市域外調査、県外調査の方針なりをそれぞれ相談してはどうか。

成田委員 自然分野ではデータを採りつつ下書きをして行かないと間に合いません。どんどん環境が変わっており、今までの動物がいなくなっていく。そんな状態が続きますので、早めにデータを採り、下書きをして、変更があった場合は追加するようにしなければ、進まない。

3～5年は必要だろうが、何年後に自然編などの冊子を発刊予定という締め切りを作っていけばそれに合わせた工程表を作って、重点的に調べる場所を決める、季節ごと決める。それに基づいて実施してほしい。

金子議長 自然は生きているし、民俗も歴史とは違うところがあります。非常に貴重なお話、これまでの体験から、さらにこれからのことについて伺いました。これらのことを踏まえて事務局には検討していただきたい。

他にいかがですか。

事務局（小高副主幹）

實形委員から、今のままでは『図説 木更津のあゆみ』以上のものがないというご意見がありました。事務局としては『図説 木更津のあゆみ』の活用について、これをもとに市民に対して市史編集事業をご理解いただくようなものとして作っているのですが、再度『図説 木更津のあゆみ』の内容を踏まえた上で、今後のことについてご検討いただきたいというのが事務局としての要望です。

これに並行して調査の実施については、どういった方法がよいのか、成田委員の意見でありましたように自然は日々環境がかわっているの、今あったものがすぐなくなる。どういったものが資料収集しなければいけないのかご検討いただきたい。今後の編集委員会日程の中でも示したように、これ

を前提にご検討ください。

金子議長

他にいかがでしょうか。

議題3については大変熱心にご意見をだしていただきました。意見は出尽くしたようですので、議案についてを終わりにしたいがよろしいでしょうか。

事務局は、本日の意見を整理し、計画の検討をお願いします。その他、事務局から何かありますか。

事務局（高橋文化課長）

次回の市史編集委員会の開催は10月上旬を予定しております。開催のご案内は、後日発送させていただきますので、よろしくお願いします。

金子議長

ただ今、事務局から次回会議の開催予定がありましたので、よろしくお願いします。

また、事務局は、本日の委員から出された意見・質問を踏まえ、新しい『木更津市史』の編集に取り組むことを要望いたします。

それでは、本日の議事は、以上で終了となりますので、議長の職を解かせていただきます。ありがとうございました。

事務局（高橋文化課長）

金子委員長ありがとうございました。

以上を持ちまして、平成25年度第1回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。

委員の皆様方には、長時間にわたりご審議をいただき誠にありがとうございました。

平成25年7月1日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子 馨